

国語 第2学年 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版に合わせ、自分の経験と結び付けて読み、登場人物への手紙で感想を表す。音読は人物の行動を捉える過程に用いる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

読み終えたとき、子どもが場面ごとに「誰が、どこで、何をしたか」を言え、行動や様子を表す言葉から「どんな気持ちだったか」を、文章の言葉を根拠にして想像して言えるようになる。その想像を音読の声（大きさ、速さ、間）で表し、役割を決めて友達と一緒に音読できるようになる。単元の終わりは、自分の体験と人物の行動を比べて考えたことを、人物への手紙に表す。手紙の形式の巧拙ではなく、読んだ内容と体験が関係する感想を評価する。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕	〔第1学年及び第2学年〕
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕	〔知識及び技能〕
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)エ	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
〔第1学年及び第2学年〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと	C読むこと
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読し、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。〔〔知識及び技能〕(1)ク・(1)ア〕
- (2) 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔C(1)イ・エ〕
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔第1学年及び第2学年の目標(3)〕
- 物語の行動と自分の体験を結び付けて感想をもち、人物への手紙に表す〔C(1)オ〕。身近なことを表す語句を増やし、手紙の中で使う〔〔知識及び技能〕(1)オ〕。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔(1)ク〕 ②言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔(1)ア〕 ③人物への思いを伝える身近な語句を増やし、手紙の中で使っている。〔(1)オ〕	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔C(1)イ〕 ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔C(1)エ〕 ③「読むこと」において、人物の行動と自分の体験を結び付けて感想をもっている。〔C(1)オ〕	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして、役割を決めて音読しようとしている。〔粘り強さの「進んで」、学習の調整の「今までの学習を生かして」、重点とするC(1)エ、言語活動のC(2)イを含めた、国立教育政策研究所の参考資料の形〕

単元の流れ

光村図書出版『国語（令和6年度版）』年間指導計画による全12時間（読⑫）。各時への活動の配分と本時の選定は、本案の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教師の読み聞かせを聞き、面白かった所を言い合う。 ○全文を音読し、登場人物を確かめる。	知①（音読の観察）
	2	○場面が変わる所（時・場所・人物が変わる所）に印を付け、場面ごとに「誰が何をした」を一文で言う。	思①（場面ごとの一文）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3	○がまくんが一人で手紙を待つ場面を読み、行動と様子の言葉に線を引いて表に書く。 ○「この人物はどんな気持ちか。どの言葉からそう思うか」を話し合い、気持ちに合わせて台詞の読み方を工夫する。	思②（表・発言）
	4	○かえるくんが手紙を書いて届けを頼む場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。	思②（表・発言）
	5 （本 時）	○二人で手紙を待つ場面を読み、前半の待つ場面と比べて、様子と行動を表す言葉から二人の気持ちを想像する。 ○想像した気持ちに合わせて、台詞の読み方を工夫する。	思②（表・発言） 知②（振り返りカード）
	6	○手紙が届く場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。 ○場面をまたいで出てくる似た言い方を探す。	知②（発言）
第3次	7～8	○行動から想像した様子を音読で確かめる。 ○印象に残った人物の行動と自分の体験の共通点や違いを話し、人物に伝えたい感想を選ぶ。	思③（体験と行動の比較メモ）
	9～12	○登場人物に、自分の体験と結び付けて感じたことを手紙に書く。 ○読み合い、どの行動からどんな感想をもったかが伝わるように直す。 ○人物への手紙を交流し、読みを振り返る。	知③・思③（人物への手紙） 態①（見直しの記録）

本時の案

本時の目標：前半の待つ場面と比べながら、様子と行動を表す言葉を見つけ、そのときの気持ちを言葉を根拠にして想像できる。(C(1)エ、(1)ア)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までの場面の表を見て、前半の「がまくんが一人で手紙を待つ場面」の行動と様子、想像した気持ちを言い直す。 2 本時の問いをつかむ。 ○「今日はもう一度待つ場面です。同じ『待つ』ですが、前と同じ気持ちでしょうか」 【めあて】同じ「待つ」場面で、気持ちは前と同じかを考えよう。 3 本時の場面を全員で音読する。	・前時までの表を黒板の中央に貼り、左側（後半の待つ場面）は空けておく。 ・かぎの中は人物の声、外は語りの声で読み分ける約束を、全員での音読で確かめる。
展開 (分)	4 誰が、何をして待っているかを一人探し、行動の言葉に線を引く。 ○「誰が、何をして待っていますか」 5 どんなふうに待っているか（様子）の言葉に、別の色で線を引く。 ○「どんなふうに待っていますか」 6 前半の待つ場面の表と並べて、同じ所と違う所を隣の人と話す。 7 全体で発表し、黒板の表の左側（後半の待つ場面）に書き込む。 8 気持ちと根拠の言葉を話し合い、線でつなぐ。 ○「二人はどんな気持ちで待っていますか。どの言葉からそう思いましたか」 9 想像した気持ちに合わせて、場面の台詞を隣の人と交代で音読する。 〈予想される児童の反応〉 ・うれしい。 ・たのしい。 ・前の場面と同じで、かなしい。 ・気持ちは言えるが、どの言葉からかを言えない。	・気持ちを聞く前に、必ず行動と様子の言葉を先に見つけさせる。 ・気持ちを言った子には「どの言葉からそう思った？」と聞いて文章に戻す。 ・気持ちを表す言葉だけで止まる子には「何を知っているから、うれしいの？」と聞き、人物が知っていることを整理する。 ・前半と同じと答えた子には、2つの場面の様子の言葉を読み比べさせる。 ・根拠の言葉を言えたことをほめ、気持ちの言葉の当たり外れは評価しない。 ・叙述と台詞は、先生が教科書から選んで書き入れる。 ・ICTがあれば本文を映して、線を引く所を全員で見る。根拠を全員で確かめやすくなる。 ◎思② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(表・発言)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	10 表を見て、前半と後半の待つ場面の違いを隣の人に一文で言う。 11 学習をまとめる。 【まとめ】同じ行動でも、様子の言葉が違っていると気持ちが違う。 12 振り返りカードに、今日見つけた言葉を1つと、その言葉から想像した気持ちを書く。	・音読で工夫した所を、板書の左端に残す。 ・振り返りカードは短く書かせる。 ◎知② 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（振り返りカード）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端：題名、作者名、めあて（同じ「待つ」場面。気持ちは同じか）。

中央：前半と後半の待つ場面を並べた表（右に前半、左に後半）。それぞれ上から「誰が」「したこと（行動）」「どんなふうに（様子）」「想像した気持ち」「そう思った言葉」を書く。左の後半を本時で埋める。気持ちと根拠の言葉は線でつなぐ。

左端：今日のまとめ（同じ行動でも、様子の言葉が違っていると気持ちが違う）と、音読で工夫した所。

つまずきやすい所と手当て

つまずき①気持ちを一言で終える。「うれしい」「かなしい」で止まって文章に戻れない。行動と様子の言葉を先に見つける手順を固定し、「どの言葉から？」を毎回聞く。②場面の切れ目が分からない。時・場所・人物が変わる所に印を付ける練習を第1次で丁寧にする。③人物の知っていることの整理。後半の待つ場面では、手紙が来ることを知っているかどうかが気持ちに関わる。「誰が何を知っているか」を表にすると、前半との違いが見える。④同じ言葉の繰り返しに気付かない。似た言い方が場面をまたいで出てくるので、同じ言葉を探す活動が(1)アの言葉の働きへの気付きにつながる。⑤音読で語のまとまりが切れない((1)ク)。範読の追い読みと、かぎの前後で区切る印を付ける。

プリントの案

場面の表

行に場面（出来事で呼ぶ）、列に「誰が」「どこで」「したこと（行動）」「どんなふうに（様子）」を置いた表。場面の数と呼び方は、先生が手元の教科書の分け方に合わせて書き入れる。C(1)イの内容の大体を捉えることのため。

気持ちとことばをつなぐカード

上に「人物の名前」「したこと」「ようす」、下に「想像した気持ち」を書く欄を置き、間を線でつなぐ形。「そう思ったことば」を書き写す欄を必ず付ける。C(1)エの想像の根拠を残す。

音読の工夫カード

読む役（がまくん、かえるくん、かたつむりくん、語り）と場面を書き、「声の大きさ」「速さ」「間」について、どう読むかと、なぜそう読むか（どの言葉から）を書く欄。(1)クの音読と、C(2)イの言語活動（第3次の役割を決めた音読）で使う。

登場人物への手紙の準備メモ

人物がしたこと、自分の似た体験または違う体験、人物に伝えたい感想を分けて書く。話したくない体験は選ばず、学校生活や読書で経験したことでもよい。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）本文（文部科学省）。目標・内容・第3の指導計画の作成と内容の取扱いはこちらから（https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf）／「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語（国立教育政策研究所、令和2年3月）。評価規準の文末の形（知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、主体的に学習に取り組む態度は「～しようとしている」で①粘り強さ②自らの学習の調整③重点とする内容④言語活動を含める）と、巻末資料のC読むこと第1学年及び第2学年の「内容のまとめりごとの評価規準（例）」に合わせた（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／光村図書出版 年間指導計画。現在の単元範囲・時数・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年下巻」5行目

（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

